

# JR松山駅付近連続立体交差事業の 工事着手に係る説明会

- 1.事業概要
- 2.高架橋及び側道の計画
- 3.高架工事の実施計画
- 4.工事損害調査



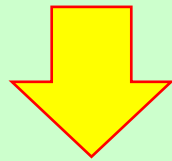
平成31年1月27日 グランディア宮田集会所

# 1.事業概要

# 事業の主な目的

## J R 松山駅周辺の現状と問題点

- ・ J R 予讃線と車両基地・貨物駅により市街地が分断
- ・ 踏切遮断による交通渋滞が日常化
- ・ 市街地分断により、駅周辺の一体的な発展が阻害



## J R 松山駅付近連続立体交差事業の目的

- ・ 道路と鉄道を連続的に立体交差化
  - 交通環境の大幅な改善
- ・ 土地区画整理事業や周辺街路事業と一体的に整備
  - 県都の陸の玄関口にふさわしい魅力あるまちづくり

# 事業の主な経緯

- 平成 2 年 1 月 松山鉄道高架検討協議会設置  
(鉄道高架による松山市中心部のまちづくり)
- 平成 1 2 年 1 月 第 4 回松山鉄道高架検討協議会  
(JR予讃線の高架化を優先して取り組む)
- 平成 1 6 年度 JR松山駅付近連続立体交差事業  
着工準備採択
- 平成 2 0 年 2 月 都市計画決定
- 平成 2 1 年 2 月 都市計画事業認可
- 平成 2 2 年 3 月 工事基本協定締結
- 平成 2 2 年度～ 測量設計、用地買収、工事に着手
- 平成 2 9 年度～ 高架橋工事に着手

# 位置図



# 事業の施行体制

## JR松山駅付近連続立体交差事業

### 【施行者：愛媛県】

地元への事業説明など

用地買収、借地など

鉄道関連施設以外の整備  
(新基地造成、アクセス道路、  
側道、水路など)

埋蔵文化財調査、  
工事損害調査、水文調査など

### 【受託者：JR四国】

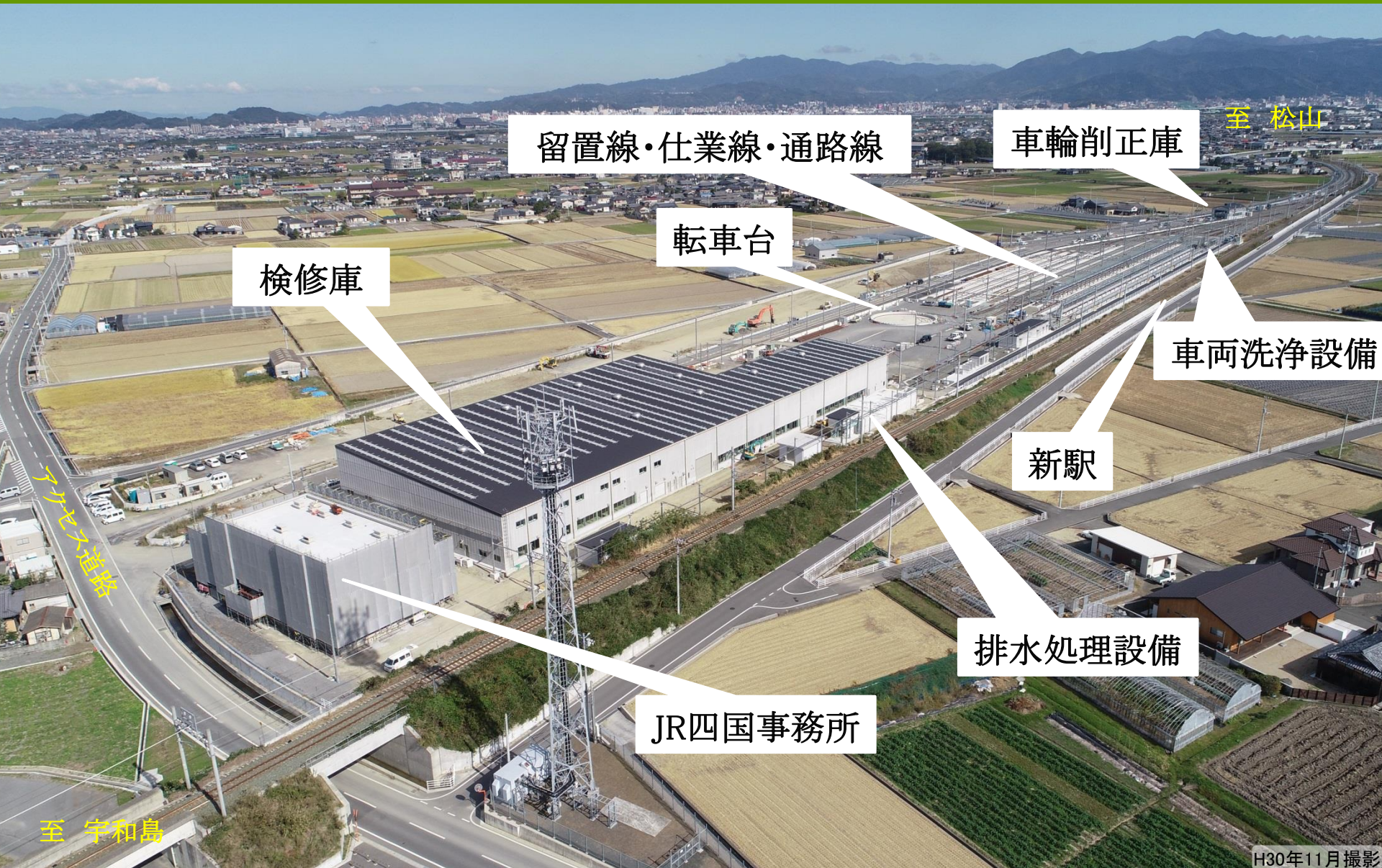
※一部はJR貨物

鉄道関連施設の整備  
(測量、設計、工事など)

# 車両基地・貨物駅、北伊予駅改良区間



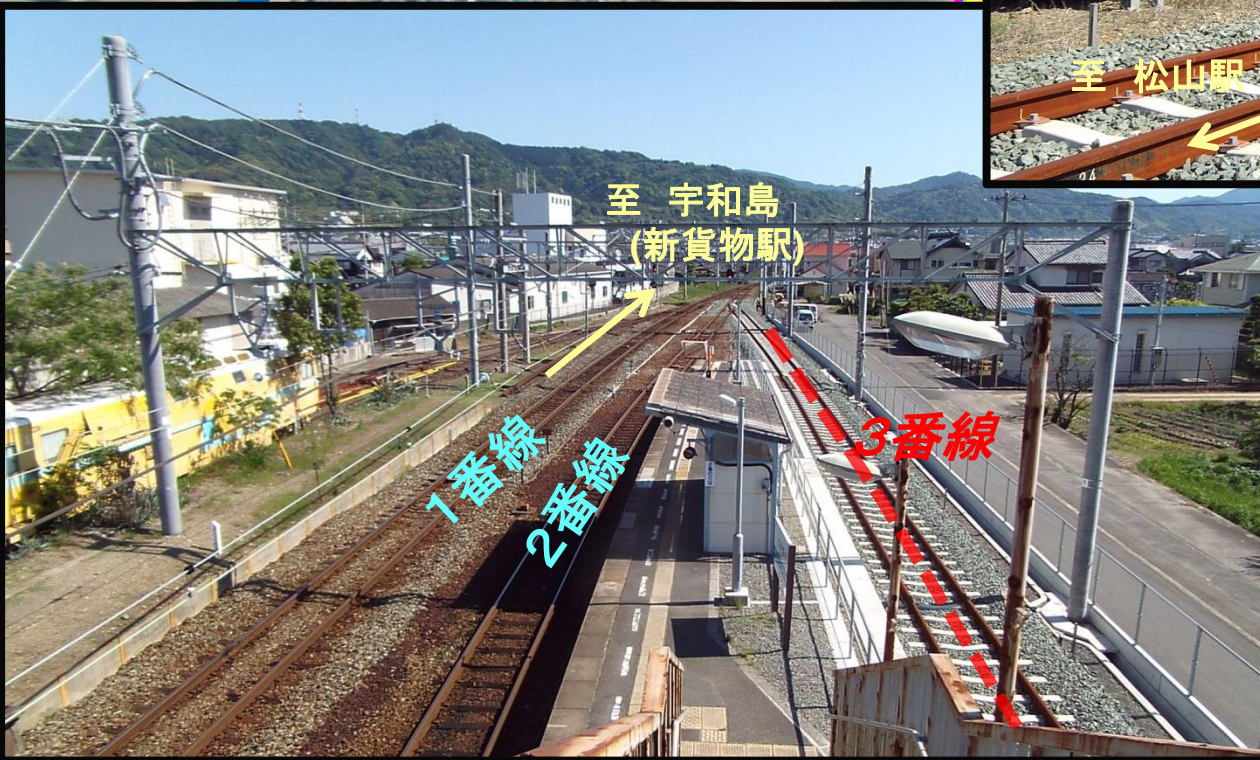
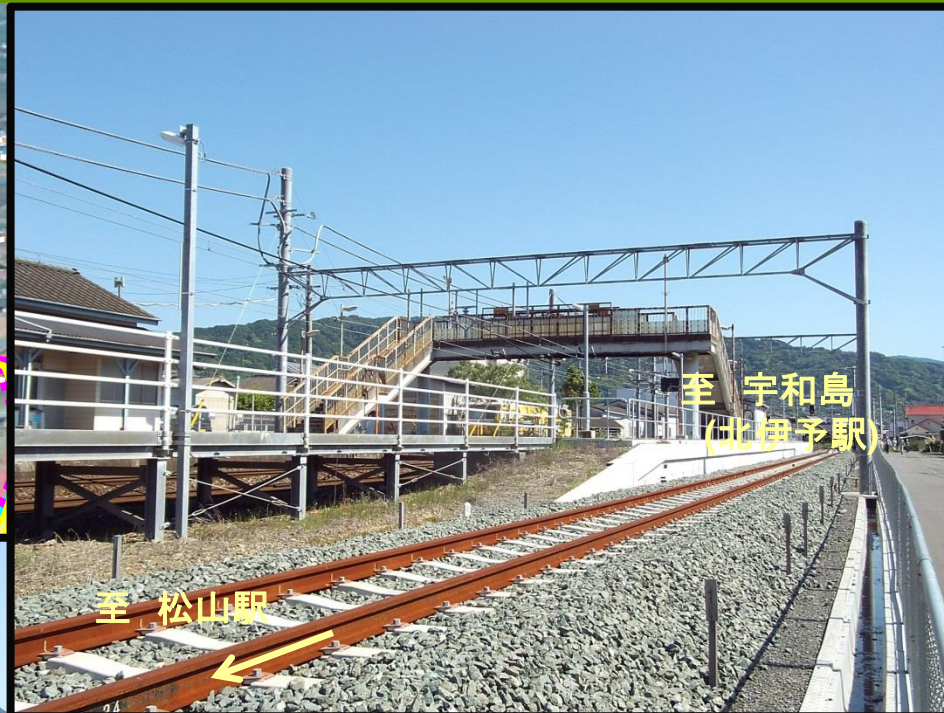
# 車両基地・貨物駅、北伊予駅改良区間



H30年11月撮影



# 車両基地・貨物駅、北伊予駅改良区間



# 行き違い線区間



# 行き違い線区間

(市坪駅方面) 整備前 (H21. 1月)

下り線  
(市坪駅方面)

上り線  
(松山駅方面)

上組踏切

(市坪駅方面)

整備後 (H29. 4月)

下り線  
(市坪駅方面)

上り線  
(松山駅方面)

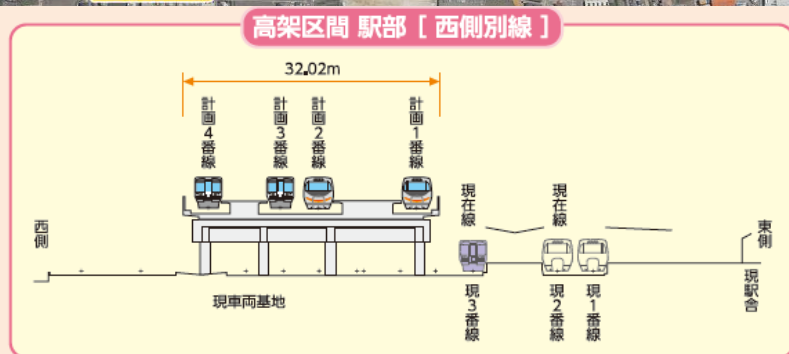
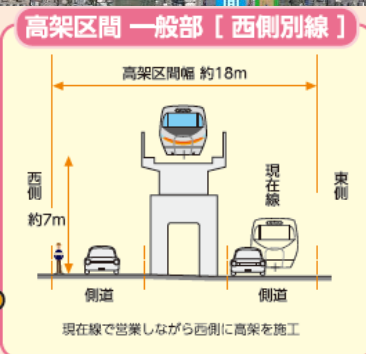
上組踏切



## 2.高架橋及び側道の計画

# 高架区間

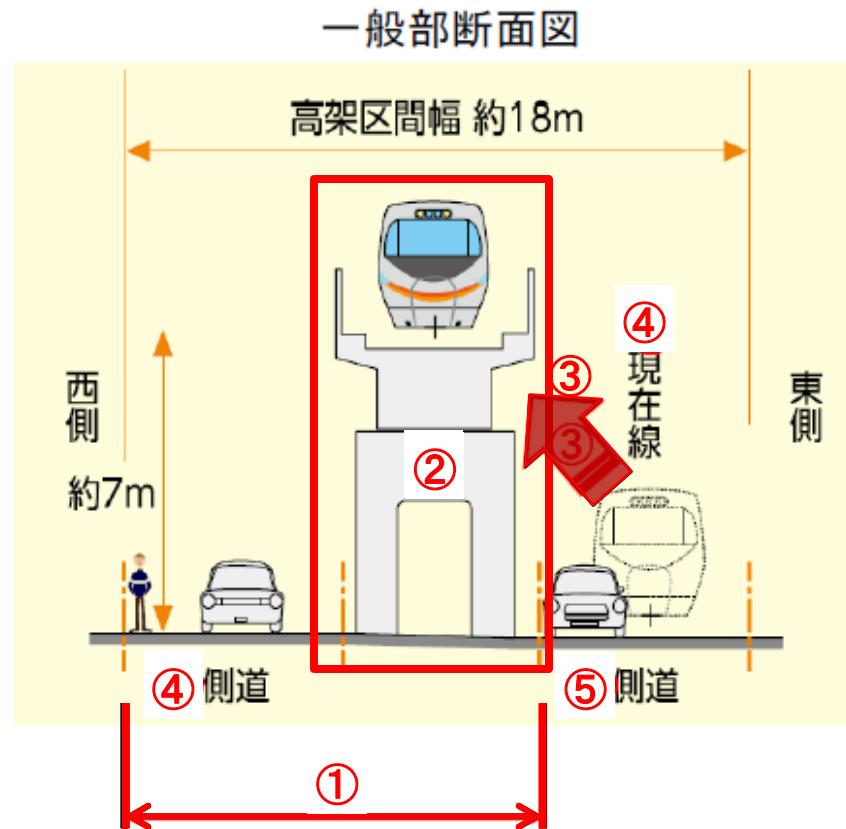
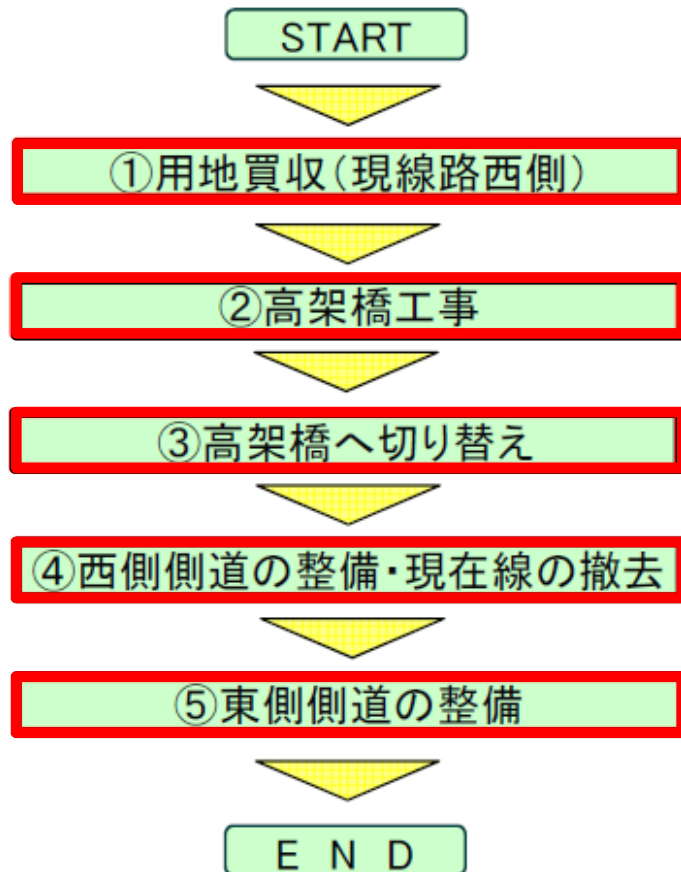
- 除却踏切(8力所)
- 高架区間
- 区画整理区域
- 幹線街路整備



# 高架区間

## 施工の流れ

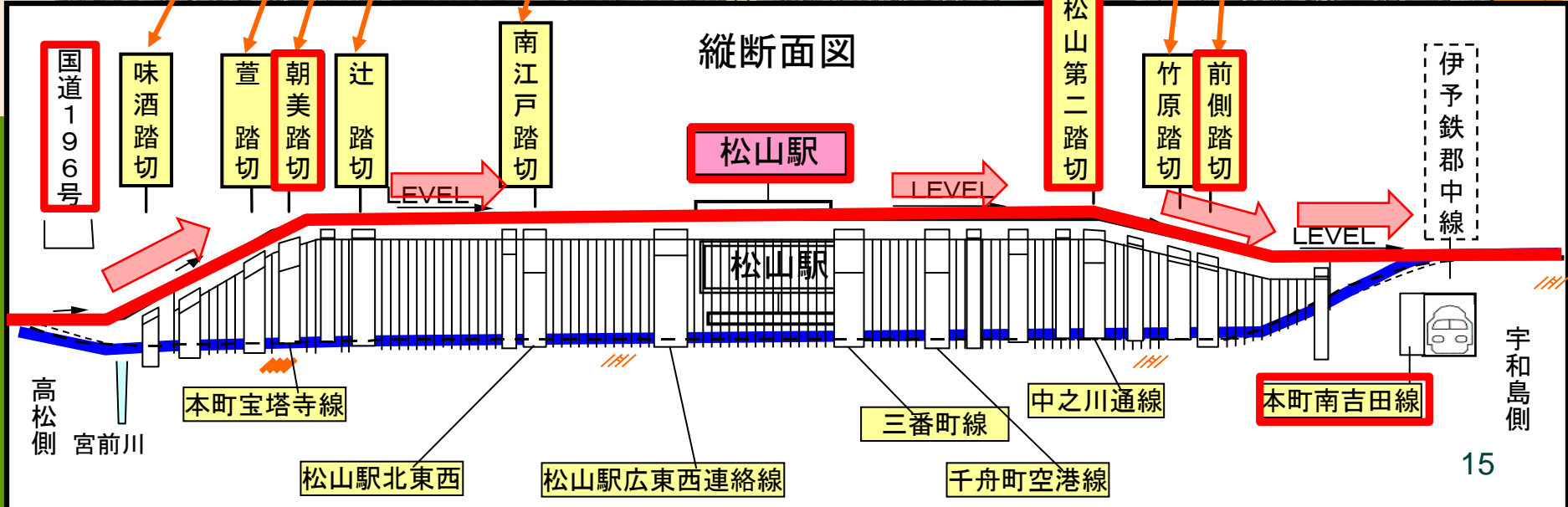
西側別線方式・・・現在線で営業しながら、西側に高架橋を施工



# 高架区間

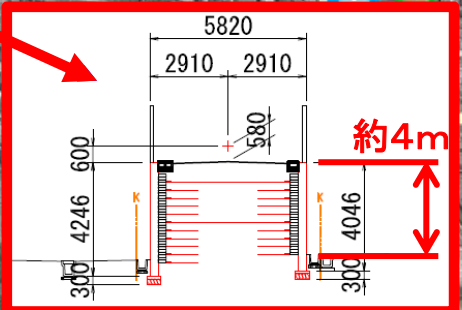
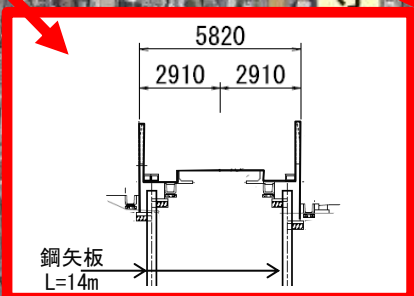
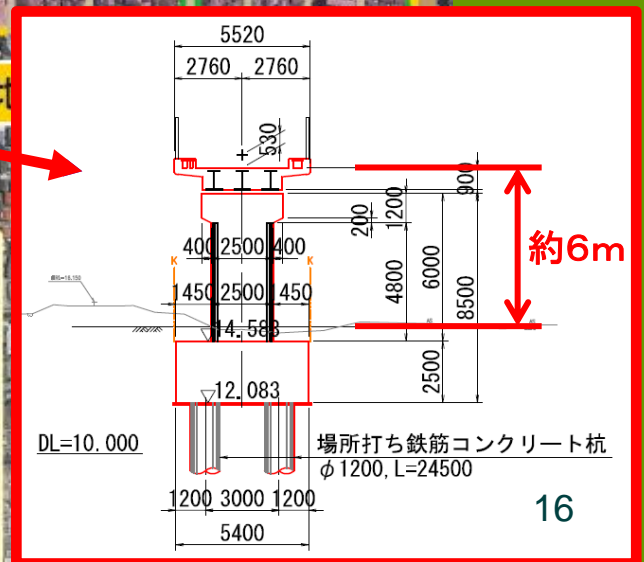
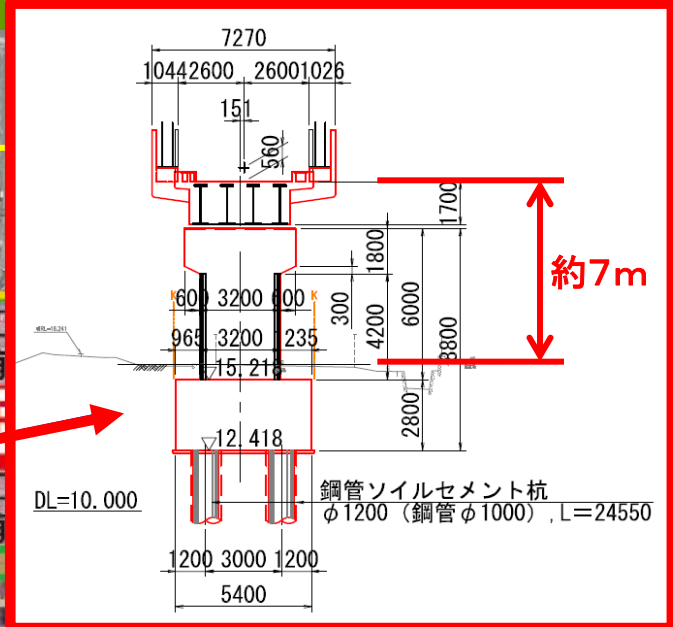
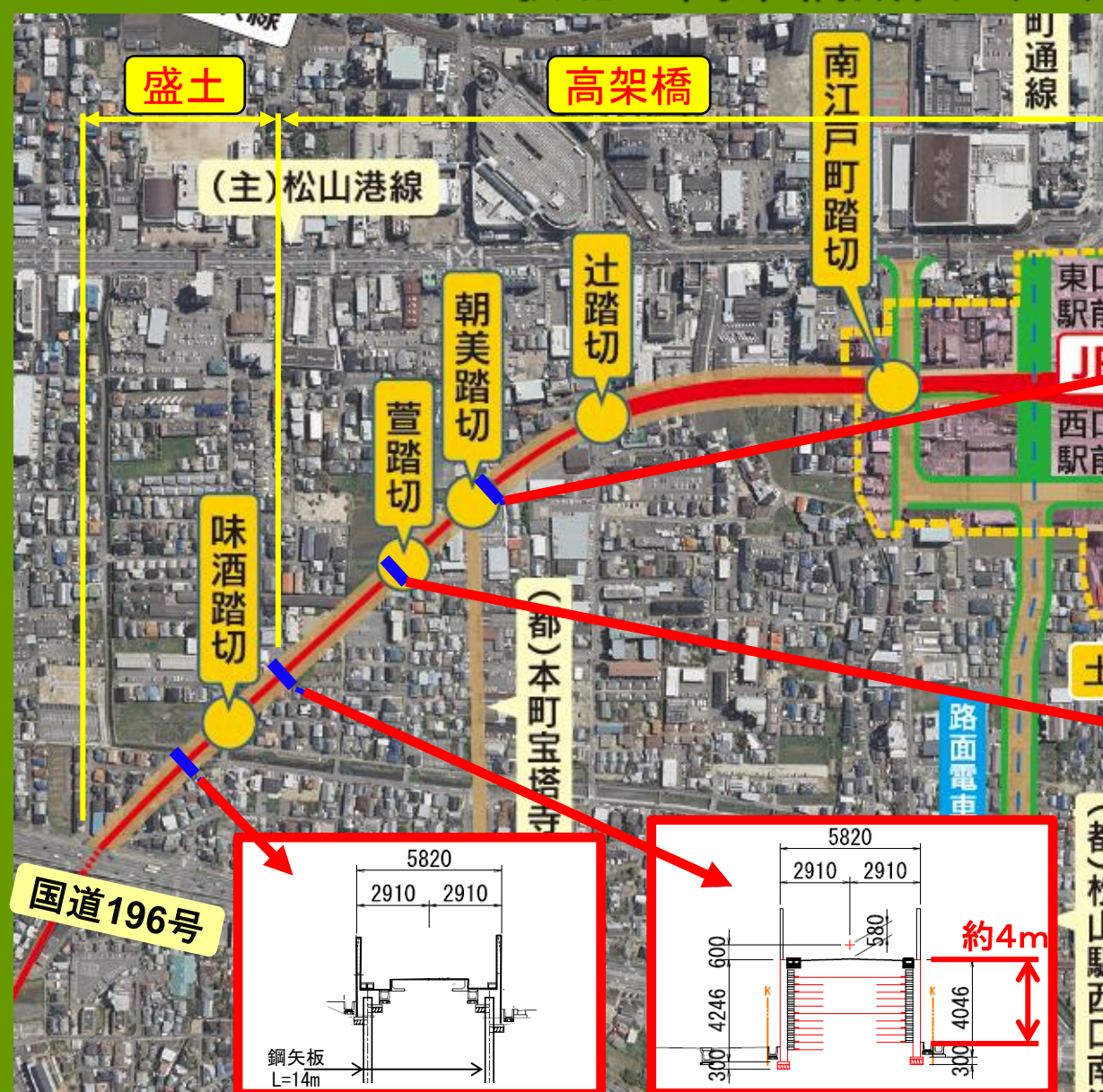


縦断面図



# 高架区間

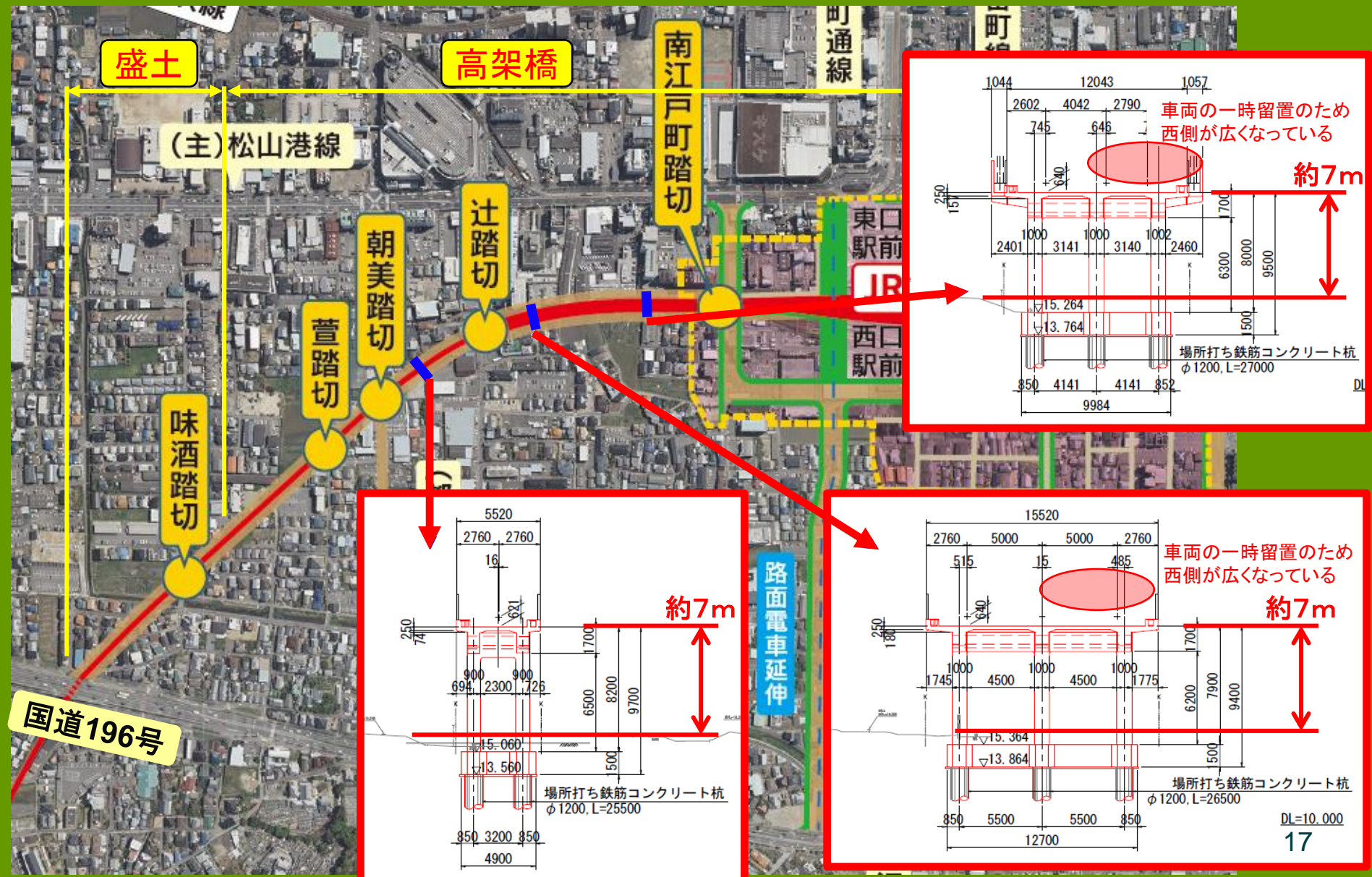
## 駅北の高架橋断面 (1)





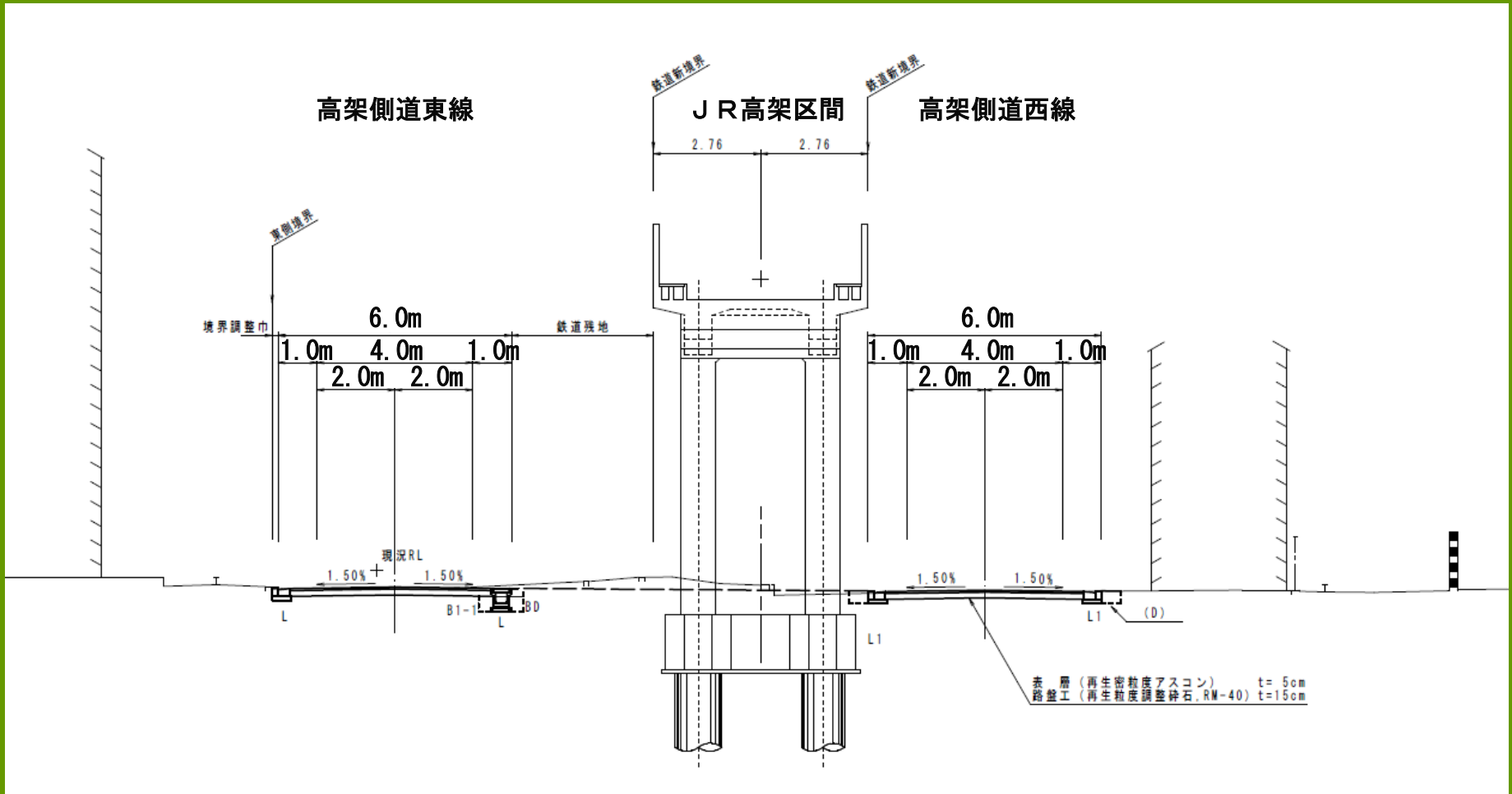
# 高架区間

## 駅北の高架橋断面（2）

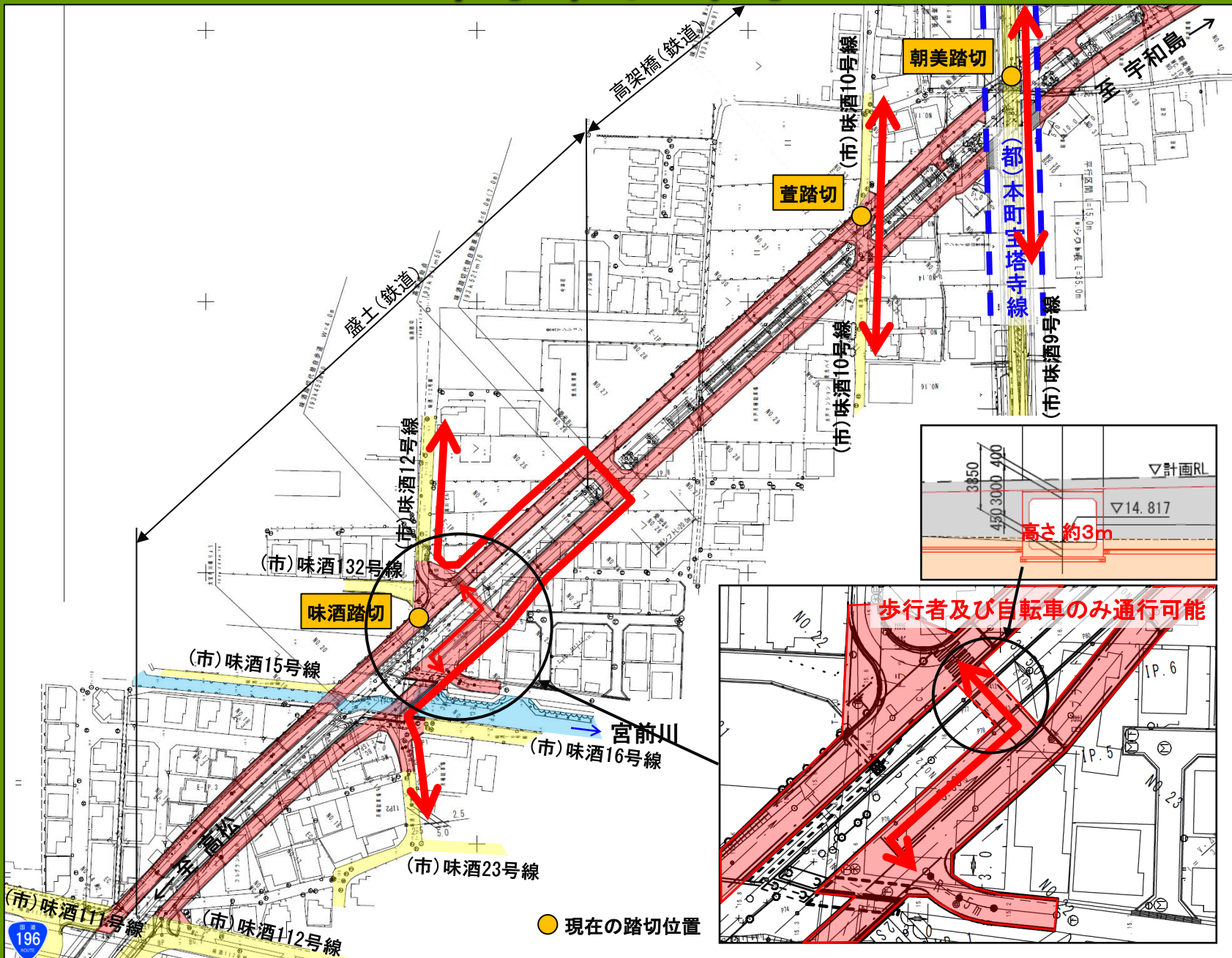


# 高架区間

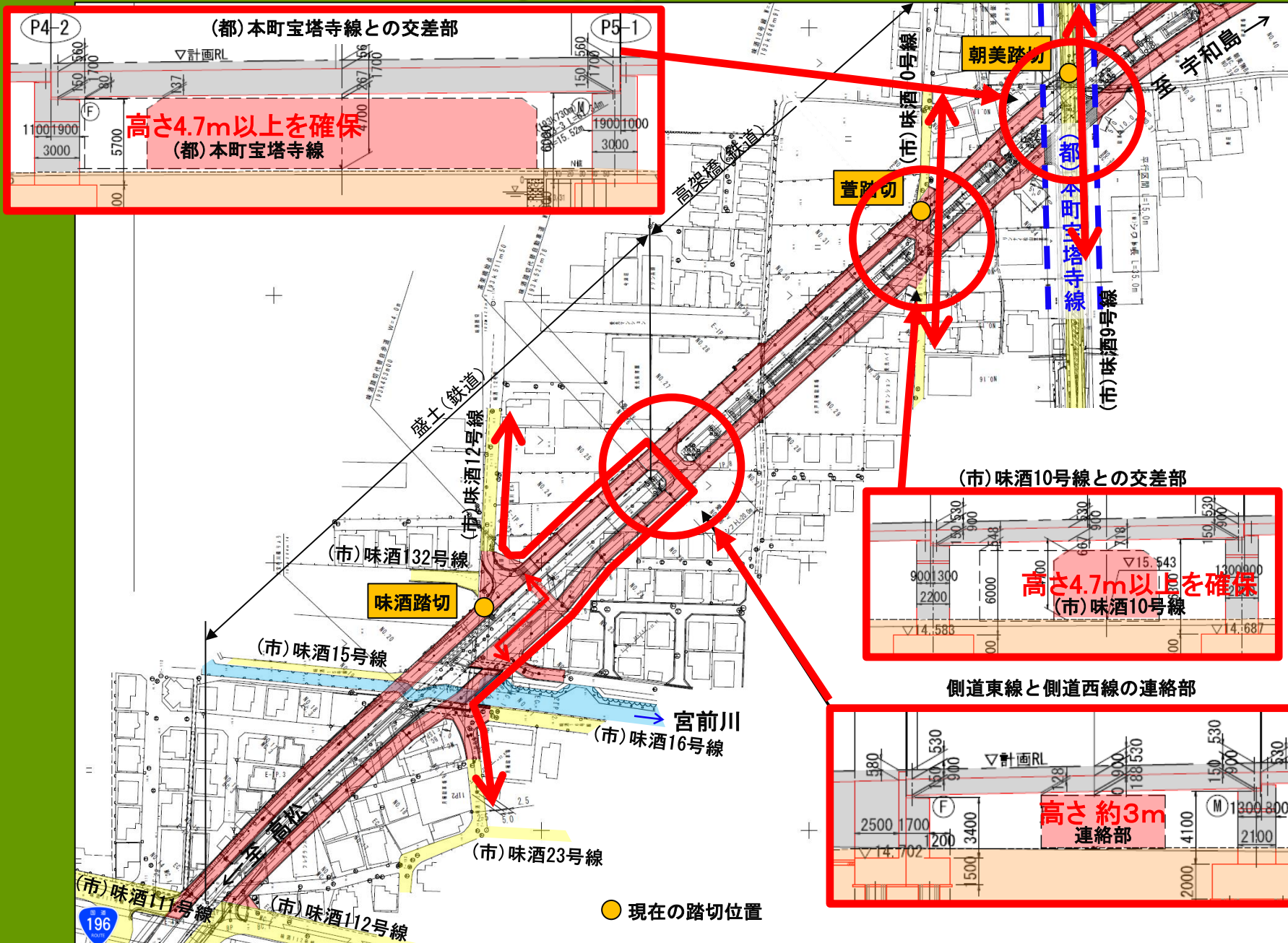
## 高架側道の幅員構成（一般部）



# 高架区間 駅北の高架側道 (1)



# 高架区間 駅北の高架側道 (2)

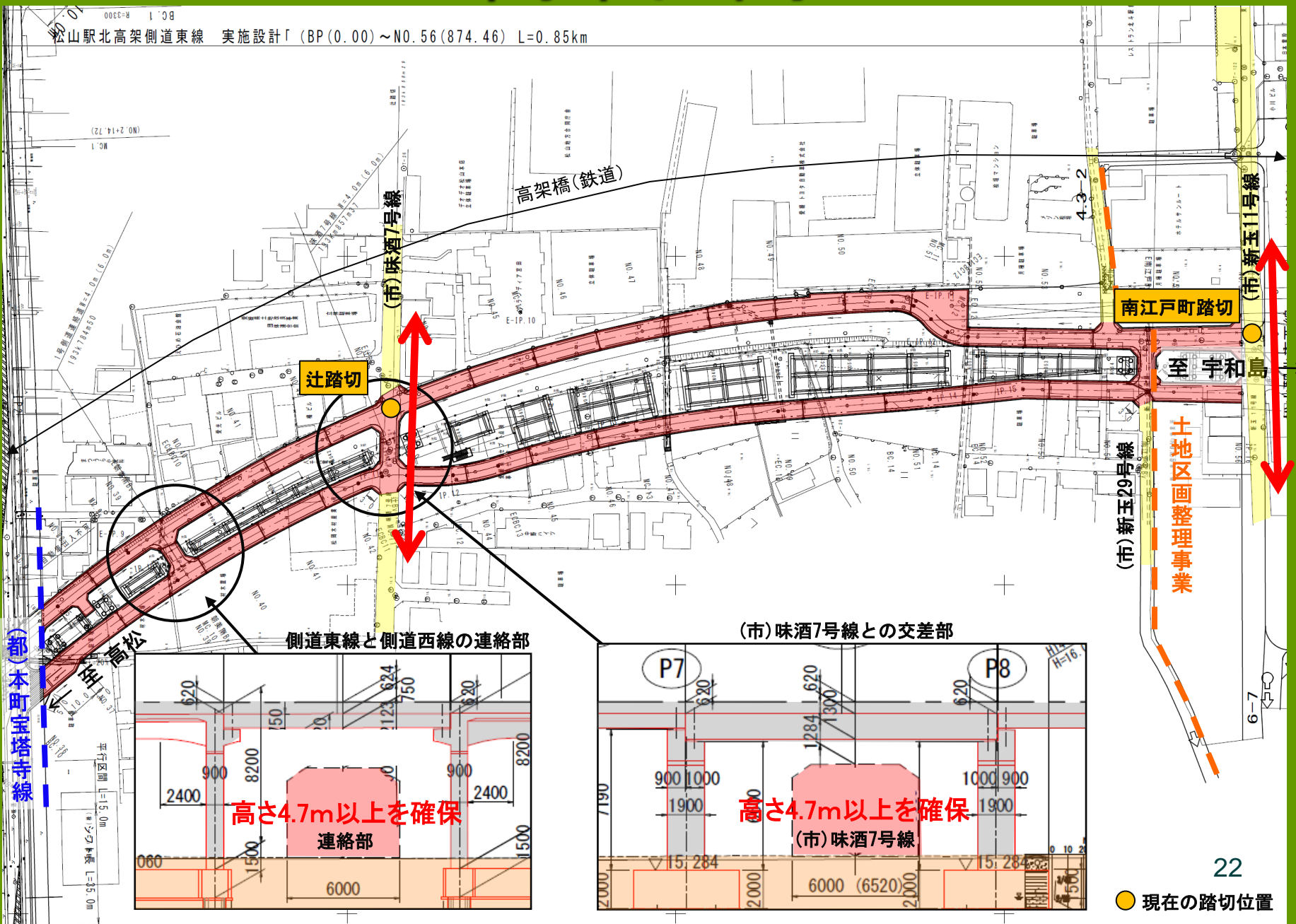


# 高架区間 駅北の高架側道 (3)

安全性及び交通処理の面で望ましくないため、側道東線と本町宝塔寺線の交差部は車両の出入りができない（自転車や歩行者は通行可能）

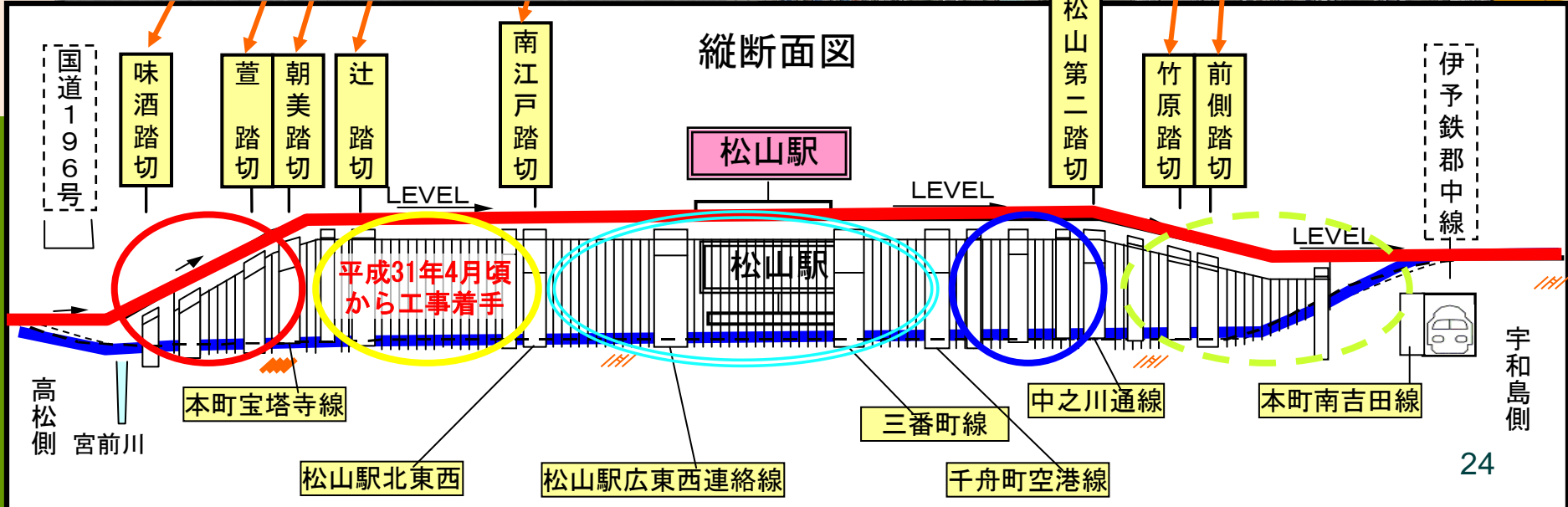


# 高架区間 駅北の高架側道 (4)



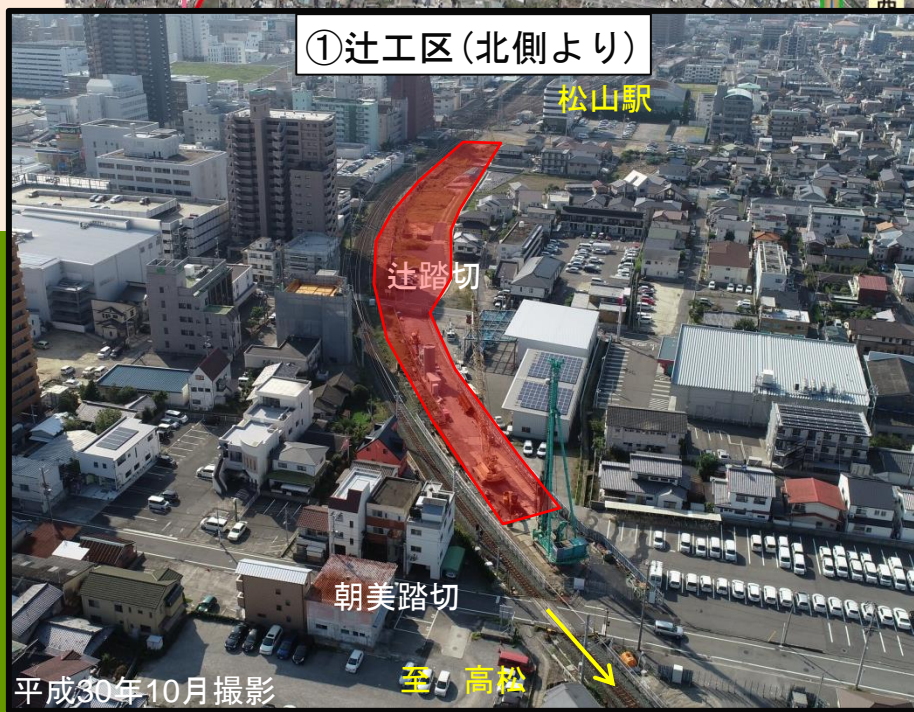
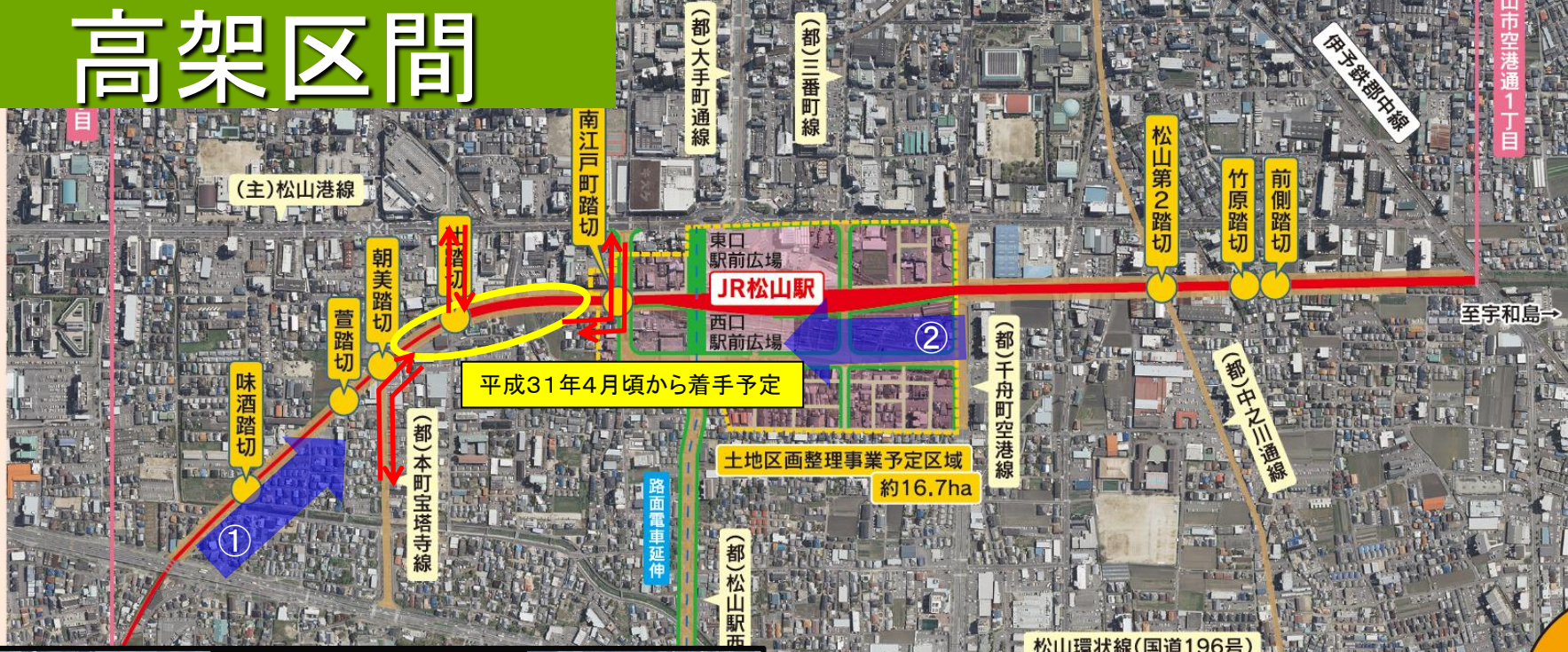
# 3.高架工事の実施計画

# 高架区間





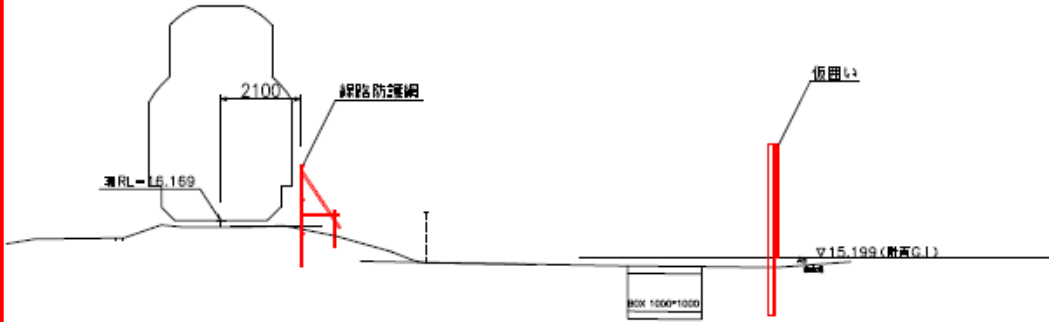
# 高架区間



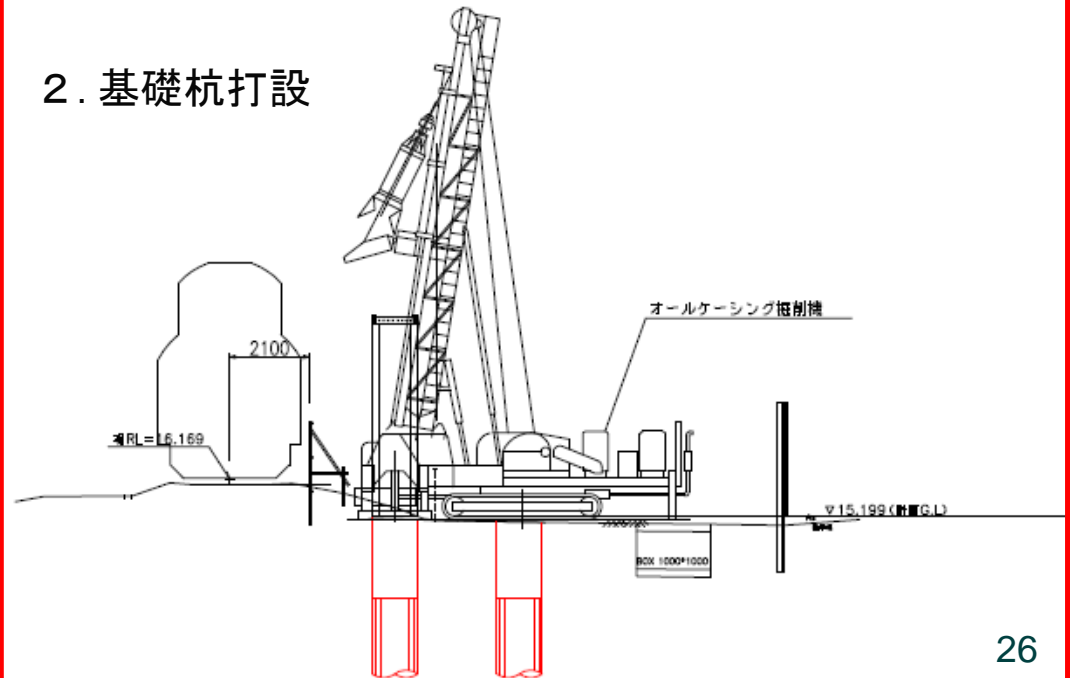
# 高架区間

## 高架橋の施工手順①（イメージ）

### 1. 線路防護柵・仮囲い設置



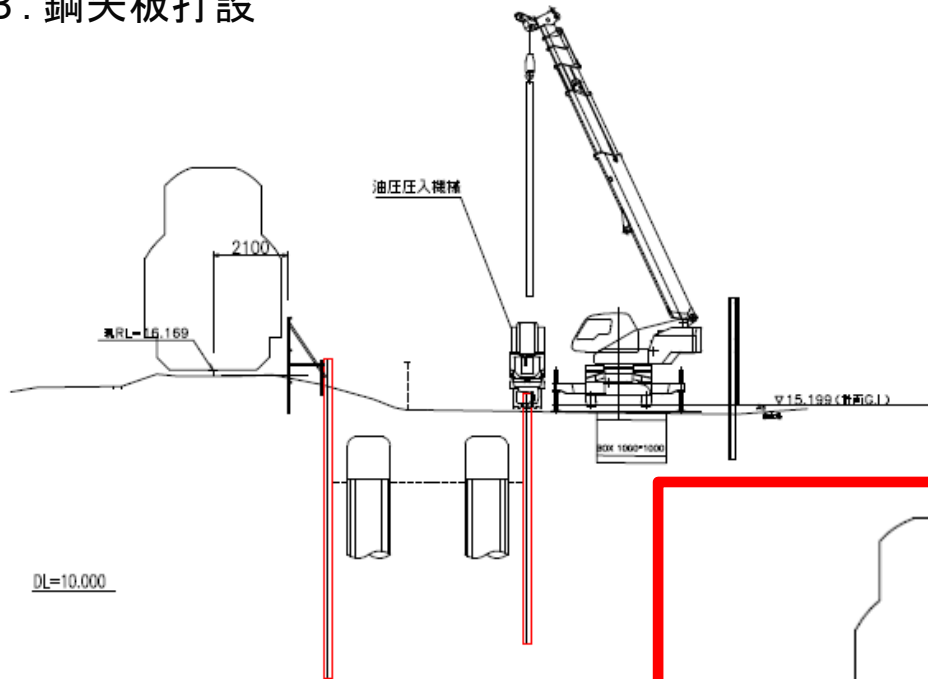
### 2. 基礎杭打設



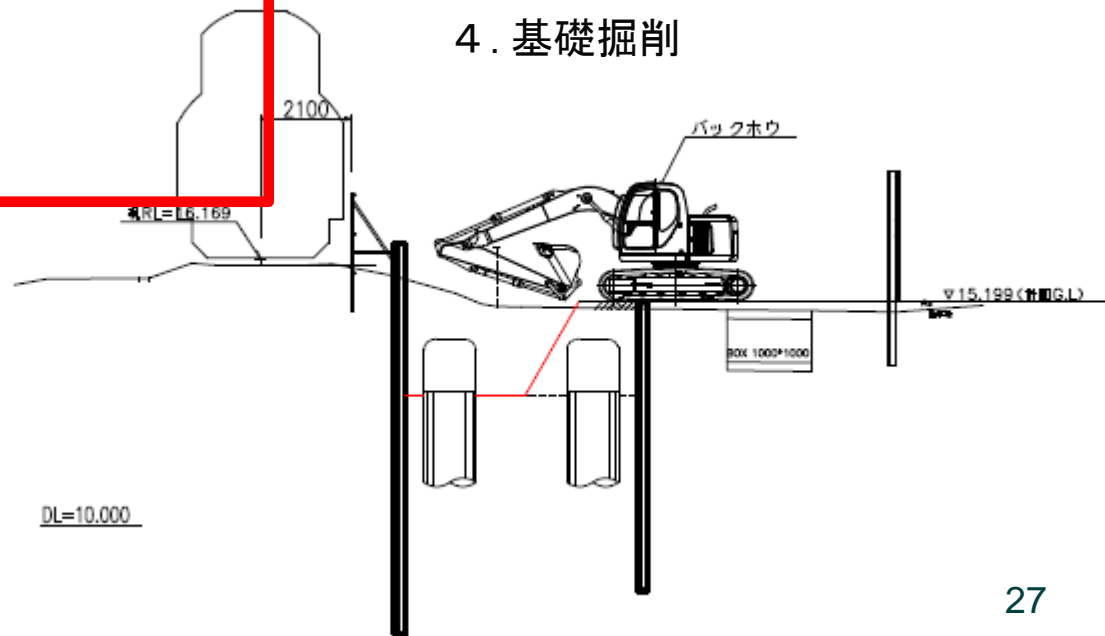
# 高架区間

## 高架橋の施工手順②（イメージ）

### 3. 鋼矢板打設



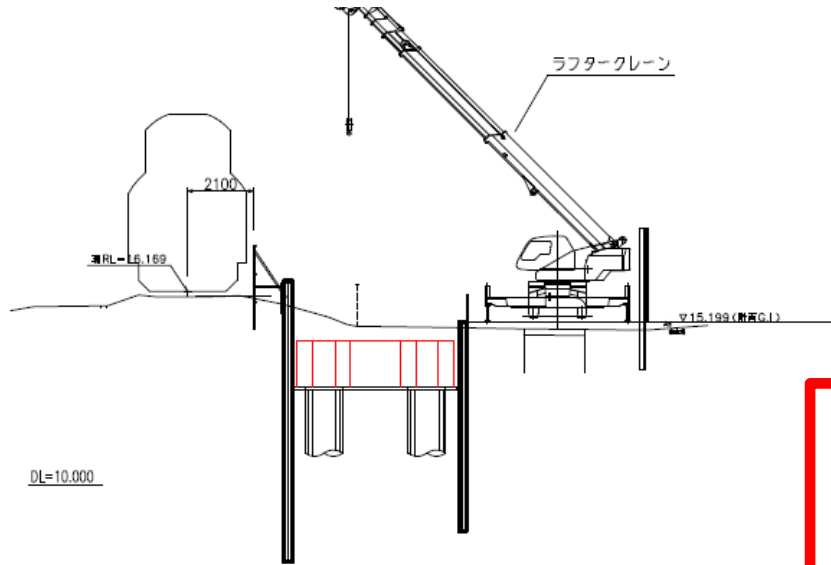
### 4. 基礎掘削



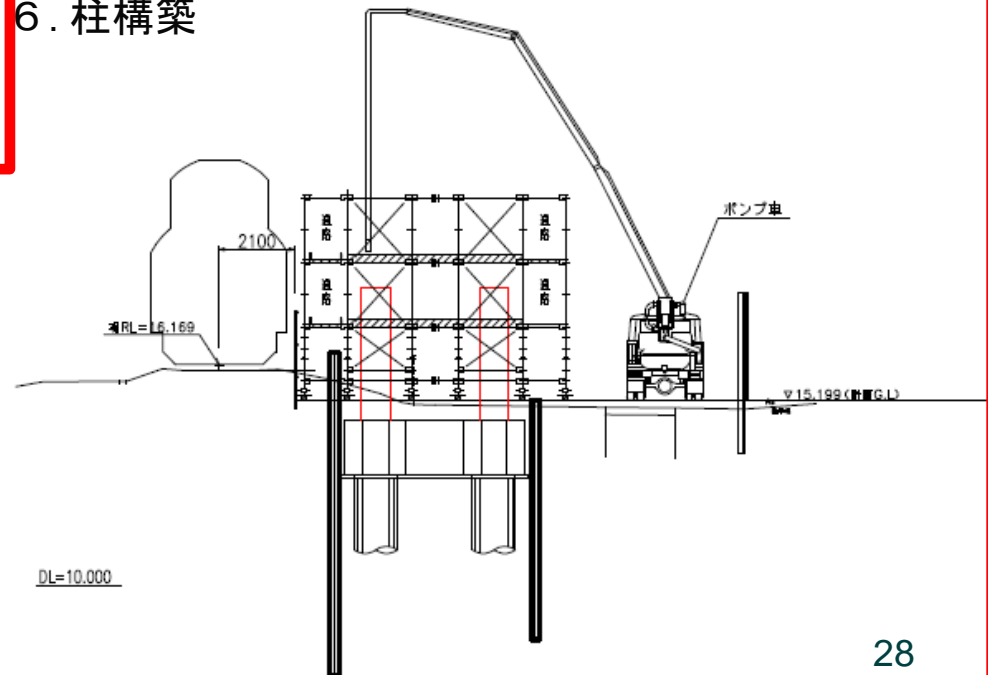
# 高架区間

## 高架橋の施工手順③（イメージ）

### 5. フーチング構築



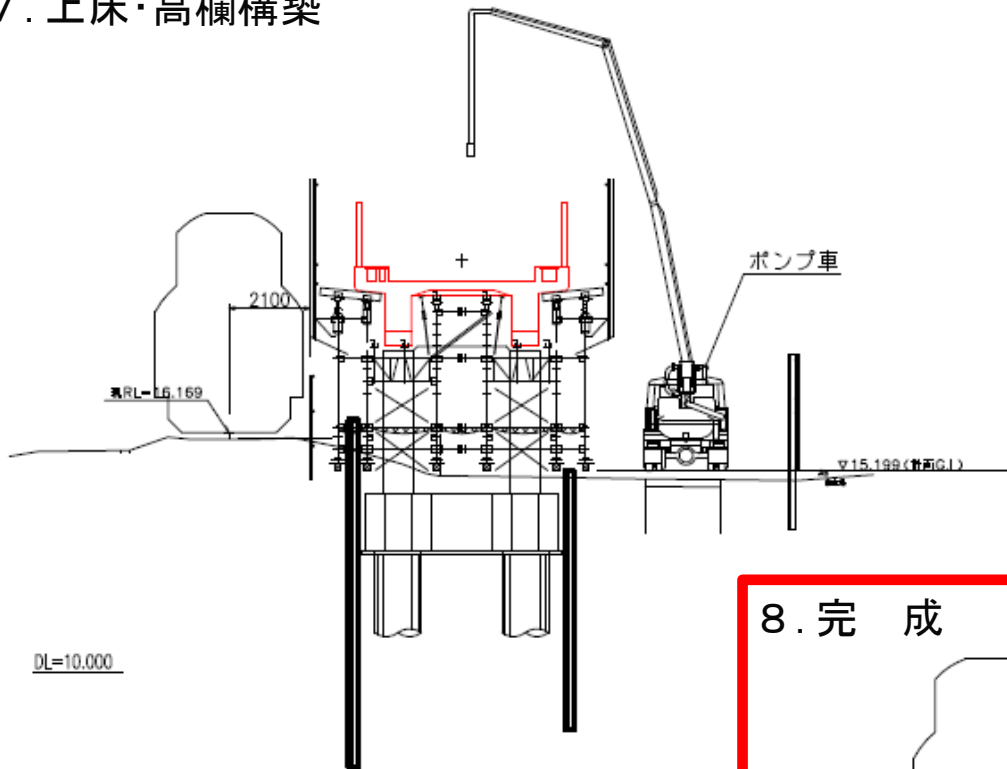
### 6. 柱構築



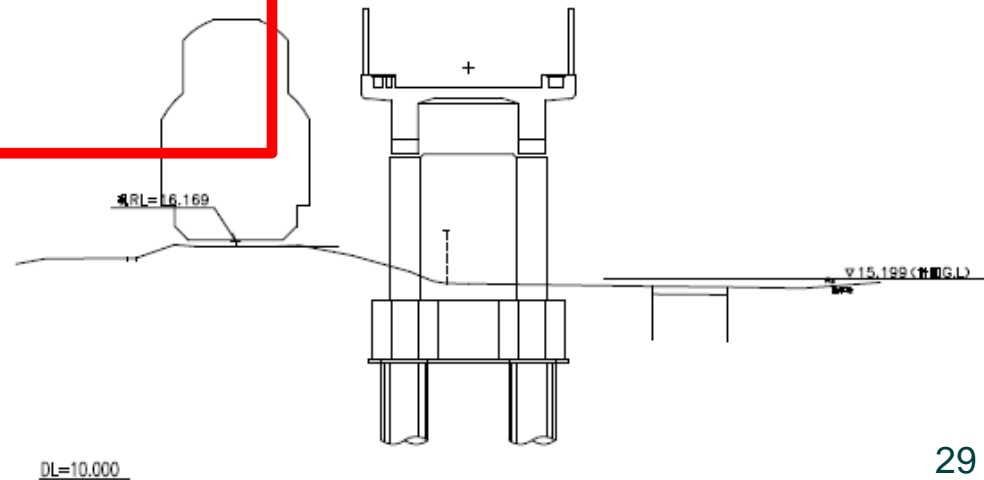
# 高架区間

## 高架橋の施工手順④（イメージ）

### 7. 上床・高欄構築



### 8. 完成

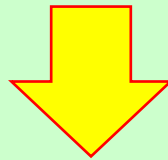


# 4.工事損害調査

# 工事損害調査の目的

工事損害調査とは・・・

公共事業に係る工事の施行に起因する地盤変動により生じた建物等の損害等を調査するもの。



工事の施工に伴い発生する振動等により、地盤に変動を生じさせることから、工事は低振動工法採用しますが、工事を施工したことにより建物の壁にひびが入るような損害等が発生する場合があります。

工事が原因で発生した場合は、損害等を補償することとなっており、その補償を行う場合には、工事前と工事後の状態を比較する必要があることから、損害等が発生する可能性が予測される範囲を対象に建物の状態を事前に調査します。

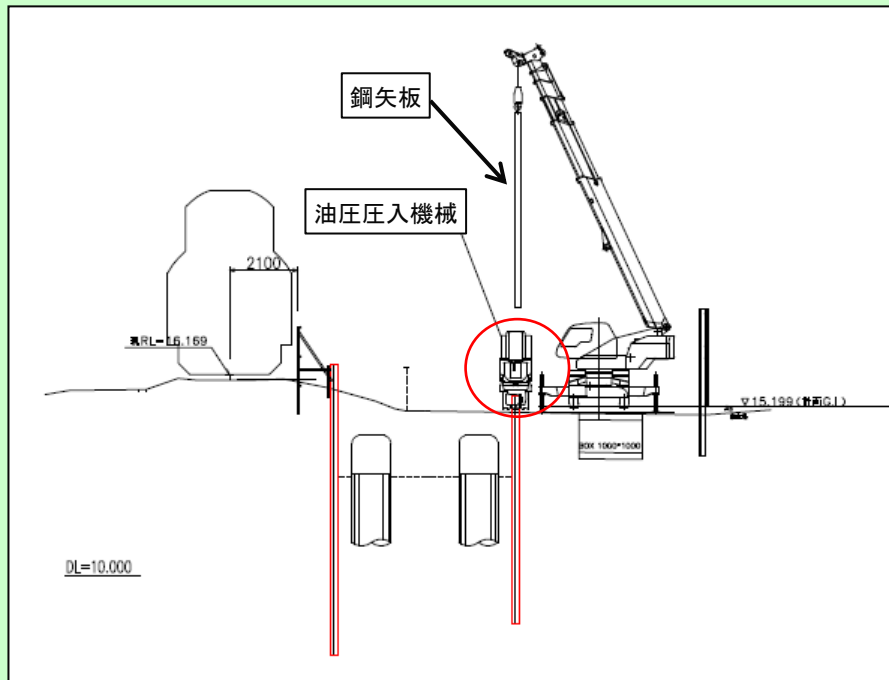
一般的に建物等に影響を及ぼす恐れのある工法の一例

- ・杭打ち
- ・鋼矢板の打設
- ・地盤改良
- ・コンクリートの取壊し作業

# 対象となる工法（駅北）

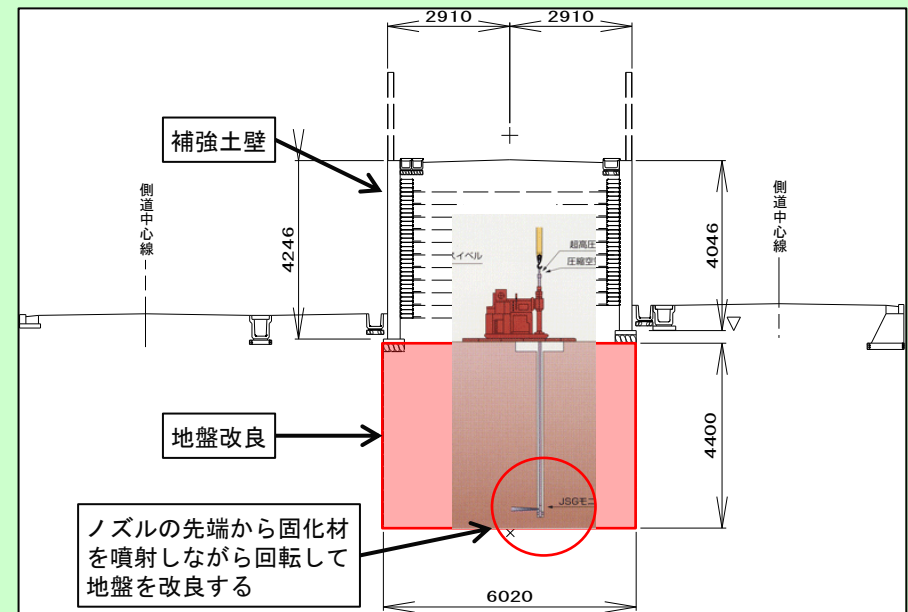
## 鋼矢板打設

- 高架橋の基礎工事中において、鋼矢板を油圧圧入機で打設します。



## 地盤改良工

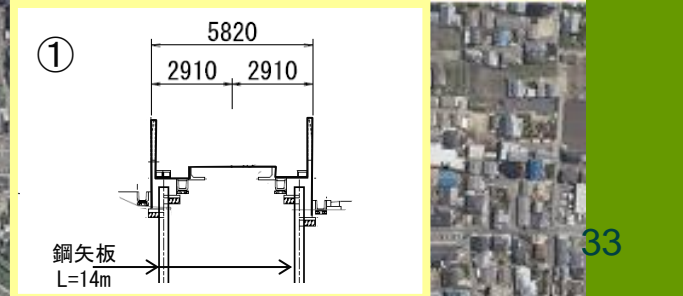
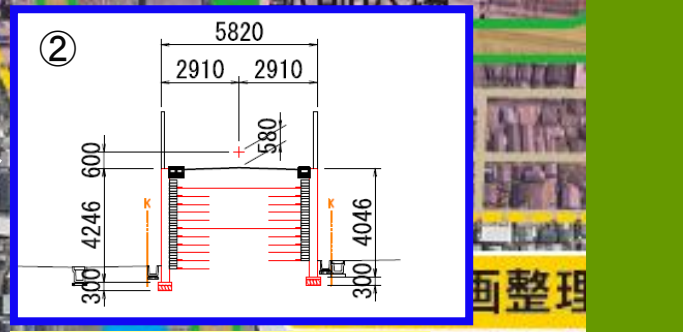
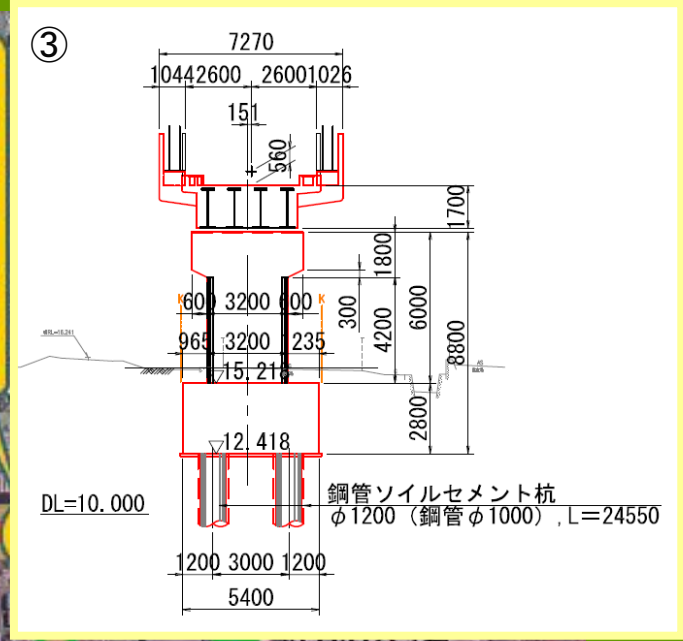
- 盛土区間の補強土壁において、紛体噴射攪拌により基礎地盤を補強します。



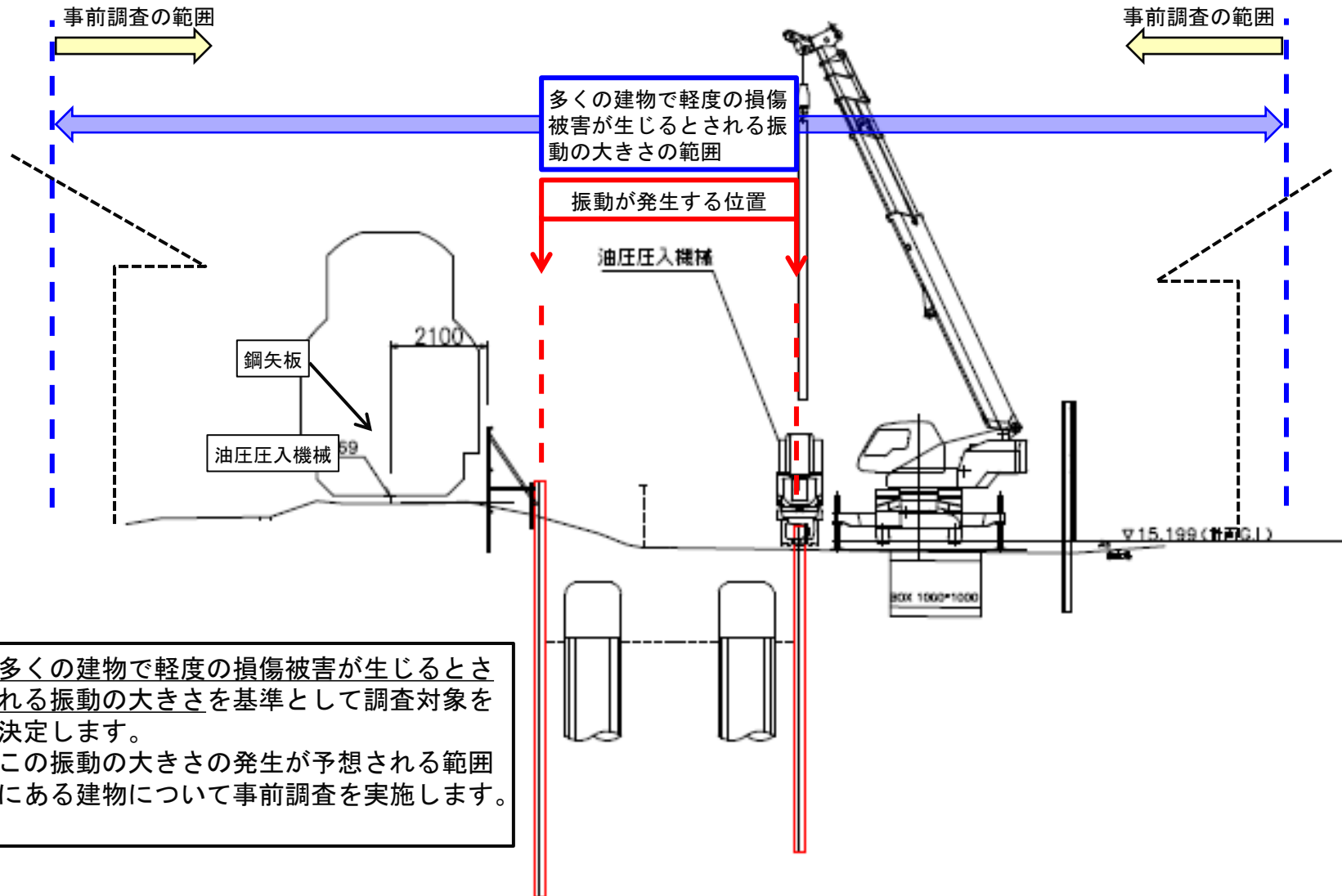
※上記施工図はイメージであるため、実際の施工機械とは異なる場合があります。



# 対象となる工法の範囲（駅北）



# 建物等の調査範囲



# 工事損害調査の流れ

## 1. 事前調査

- ・対象となる工法の工事施工前に影響が想定される建物等の現状を調査します。
- ・調査にあたっては、建物内にも立入りさせていただきます。

## 2. 工事の施工

## 3. 事後調査の意向確認

- ・対象となる工法の工事完了後に、事後調査の意向を確認します。
- ・事後調査を辞退される場合は、建物等の損害を補償することができません。

## 4. 事後調査

- ・希望される方に事後調査を実施します。

## 5. 因果関係の判定

- ・事後調査により変状が確認された場合に、工事との因果関係について確認します。

## 6. 補償金の算定

- ・変状が工事によるものと確認され、受忍の範囲を超えると判断される場合に、変状に対する補償金を算定します。

## 7. 補償金の提示

- ・算定した補償金額を建物等の所有者の方に提示します。

## 8. 契約

## 9. 補償金の支払い

※事前調査の実施にあたっては、工事実施前に調査対象の建物等の関係者の方へ個別に伺いますので、ご協力をお願いします。

皆様の より一層の  
ご支援、ご協力をお願いします。

